令和６年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 (令和6年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月７日実施）	総合評価（３月 24 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○基礎学力の定着に向けたバランスのとれた教育課程を編成するとともに、多様な生徒の特性等に対応した質の高い学習指導に取り組み、生徒一人ひとりの学習機会の拡大を促進する。	①学力の３要素を踏まえた教育課程の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「確かな学力」の向上を図る。 ②すべての生徒の学習を保障し、ICT を利活用した指導方法の工夫・改善を図る。	①生徒が身に付けるべき学力の３要素をどの単元でどのように指導するか教科で共有する。また、授業の振り返りを行い、生徒の意見をフィードバックしながら学力向上を図る。 ②特別募集を含めたすべての生徒に対し、ICT を利活用したわかりやすい、達成感のある授業を目指す。	①学力の３要素を含んだ深い学びができる具体的な方策を「指導と評価」の計画の中で示すことができたか。また、生徒の意見をフィードバックしながら授業改善につなげることができたか。 ②生徒による授業評価の「できるようになったと実感する」の観点ですべての科目で 87%以上の肯定的な回答が得られたか。	①「単元の指導と評価の計画」を立てる際に、生徒が身に付けるべき力を教科内で話し合い、学力の 3 要素を踏まえた計画を立てた。また、学習活動を評価にどうつなげるかをテーマに研究授業を行い、教科横断の研究協議の中で、授業改善に向けた評価・指導方法を共有した。 ②生徒による授業評価では、1科目を除きすべての項目で 87%以上の肯定的な結果が得られた。	①授業の振り返りを分析し、生徒の意見をフィードバックしながら授業改善にもっと繋げていけたら良い。 ②特別募集の生徒に対し、個々の指導方法や支援体制を更に考えていく必要がある。 １人１台端末を利活用し、深い学びに結び付いた授業を展開できるように研究をしていきたい。	①課題と捉えている「一人一人に総合型や公募制にも挑戦できるプレゼン力をつけさせるための工夫の必要性」について次年度計画・実施することが期待される。 ②授業評価で87%以上が肯定的な結果が得られたことは、目標達成が十分であった。授業にＩＣＴを活用し生成ＡＩやドローンを取り入れるなど先進的な取組が高評価につながっていると考える。 ②特別募集生徒への支援体制について、具体的に何を整備し、改善すべきか洗い出しが必要と考える。	①研究授業を通して授業改善に力を入れた結果、生徒による授業評価で多くの肯定的な回答がえられた。特別募集の生徒も含め、多くの生徒が、できるようになったと実感できるような授業を目指していきたい。 ②特別募集の生徒に対しての個々の指導や支援体制にもっと力を入れていきたい。	①授業の振り返りを分析し、生徒の意見をフィードバックしながら改善すべき点を考えていく。 進路につながるようなプレゼンテーション力を身に付けるための授業を計画する。 ②特別募集の生徒が抱えているも問題はそれぞれ違うので、個々に対応した指導や支援を考え具体化していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○自転車乗車マナーの向上を積極的に進め、交通安全に対する取組を組織的に推進する。 ○生徒の自主的・主体的な活動を支援し、豊かな人間性や社会性を培う活動内容の充実を図る。	①自転車乗車中のマナーの向上と事故防止のための取り組みを組織的に実施する。 ②生徒会活動を支援し、生徒が自主的・自発的に諸活動へ参加できるように取り組む。	①地域や外部機関と連携を図り、交通安全指導の充実を図る。 ②生徒会、各委員会及びボランティア活動を活性化するとともに、ソーシャルメディアなどを活用し、部活動や生徒会本部の活動を発信することで更なる生徒会活動の充実を図る。	①意識の向上により事故件数を減らすことができたか。また近隣の方々からの苦情が減少したか。 ②生徒会、各委員会、ボランティア活動へ生徒の自主的・自発的な参加を促すことができたか。また、ソーシャルメディアを活用することで中学生や地域住民が本校の生徒会活動に興味関心を持つことができたか。	①大半の生徒の交通安全に対する意識は向上していると思われるが、事故件数や苦情件数は横ばいである。 ②生徒会活動では、特に行事において自主的に参加を促すことができた。また、生徒会本部と各委員会が中心となり麗鶴祭の企画・運営を行った。	①各 HR での指導や教員による立ち番指導、行事などを通して更なる改善を図る。 ②生徒主体の学校づくりを実現するため、生徒会、各委員会や部活動の代表と連携を図る。	①交通指導による生徒の意識向上と行動の変容を怠りなく推進することが求められている現状であると考える。苦情件数の低減を図る具体策を企画を考案してほしい。交通安全指導は急に効果が上がるものではなく、今後も継続して取り組むことが大切と考える。 ②朝、教員、保護者、生徒が連携してあいさつの励行をしているのもより取組である。 ②生徒会の自主的な活動が実施できたことは教職員の働きかけがうかがえる。年度ごとに継承することが大切だと思うので、組織的な対応を期待する。	①交通事故の件数は減少しているものの、苦情については変わっていない。自転車の事故防止とマナー向上の指導についてさらなる努力が必要である。 ②「生徒主体の学校づくり」をテーマに生徒会本部が活動を行ってきた成果として、生徒会本部の自主性が高まったと思う。しかしながら、全生徒を巻き込んだ活動はできていなかった。	①事故防止とマナー向上の指導について、継続する内容と新たな対策を模索する。 ②全生徒を巻き込んで、あいさつ運動や行事の運営を行っていきたい。生徒会本部、部活動、委員会の繋がりを強固なものにしていきたい。そのため、リーダー会議を定期的に実施する。

3	進路指導・支援	○　基礎力の定着とともに思考力・判断力・表現力の伸長を目指した探究活動を展開する。 ○生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導を展開し、多様性を意識し、共生社会の実現に向け行動する力を育む。	①進路実現に向け、探究活動での思考力・判断力・表現力の伸長と、キャリア教育実践を充実させる。 ②特別募集の生徒の進路決定に向け、教科「職業」の内容の充実を図る。面談ではスクールソーシャルワーカー（以下SSW）などの専門職との連携を図り、進路決定に向けた支援の充実を図る	①外部機関との連携を交えながら、各学年ごとに、計画的にキャリア教育、探究活動を実践する。 ②「職業」では自己理解やソーシャルスキルの向上を目指す。SSWなどの専門職と連携し、面談内容の充実を図る。	①生徒一人ひとりが意識を持って取り組む支援ができたか。 目標や計画が可視化できたか。 ②自己理解やソーシャルスキルの向上が図れたか。 SSWと連携を図って、面談で生徒・保護者の理解を図れたか。	①各学年ごとに大学・専門学校等による体験・説明会当を実施し、生徒の将来の進路に関して考え、選択する機会を創出することができた。探究活動については、各学年で発表の機会を設けることができた。 ②「職業」では、電話や来客の対応などについて実技を交える内容の授業に取組んだ。面談では、生徒の意思を聞くとともに適性などをSSWに相談するなど連携を図って行うことができた。	①3 年間を見通したキャリア教育や探究活動に、組織的に運営できるよう取り組んでいく。 ②福祉就労に関する制度変更が予定されている。本校生徒の進路指導に向けて、情報収集をおこない、SSW とも連携してスムースに手続等ができるよう取り組んでいく。	①生徒の職業観就業意識を高めるために、「探究活動」と接続した取組が行われていると思う。生徒の進路研究・探究発表会のような先進事例を参考に本校オリジナルの進路指導の発展が望まれる。 ②本校は相模原市内の中学校から多くの生徒が進学している。小中学校でのキャリア教育への取組が高校につながり、その効果が期待されるので、今後もキャリア教育を進めていただきたい。職業人講話やスーツの着こなし講座は生徒の一生の宝になる。	①生徒が意欲的に将来について考え選択できるよう各学年ごとの進路説明会や講演会を計画的に運営していきたい。 ②特別募集生徒対象の「職業」は実技を交え、内容についても社会生活を想定した内容で実施することができた。また、多様な進路希望がある中で、SSW に相談することで指導の方向性や具体的な取り組みについて提示することができた。	①今年度の進路結果や担任からの報告を振り返り、生徒のよりよい進路研究・探究活動が進むよう計画を立て、実施していく。 ②特別募集生徒の特徴は学年に限らず多様な傾向がある。生徒一人ひとりの特徴に合わせて授業での対応や進路指導で適切に対応できるよう、教員間での情報共有を図り、専門職との連携を図っていく。
4	地域等との協働	○PTA との連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	①積極的に地域との交流を行うことにより、本校の教育活動の充実を図る。	①生徒会、PTA、自治会等が連携し、地域の行事に積極的に参加・協力していく。地域の要望を踏まえた「地域貢献デー」を全学年で実施する。 ②ホームページの更新に加え、ソーシャルメディアを開設し、積極的に情報発信し、本校についての理解を図る。	①地域の行事・催し物に積極的に参加できたか。また、地域のニーズを踏まえた「地域貢献デー」を実施できたか。 ②校内の各グループ等のホームページ担当を中心に本校の情報発信を積極的にできたか。	①生徒及び PTA が地域の行事・催し物に参加することは出来た。地域貢献においては、全学年で清掃範囲を広げて実施することができた。 ②学校行事や部活動など数多くのホームページ更新があった。また、パンフレットを大幅に変更し、ホームページでも閲覧できるようになった。 学校説明会などにデジタルサイネージを展示し来場者に本校の情報を発信することができた。	①地域貢献においては、現在の清掃活動以外に何ができるかを模索していく。 ②ホームページの更新が適切に行われているか定期的にチェックしていく。全公立展や公私合同説明会の展示の改善に努めていきたい。	①全学年で地域行事に参加し、清掃活動を行うことは大変な努力を要すると思うが、小中学校との連携行事や高校生による中学生への部活動体験の機会を創出するようなことで、地域連携の機会ができる。 ②部活動の様子をホームページで発信するのは地域にも喜ばれている。ホームページだけでなく紙媒体のものを回覧や掲示板を活用し高齢の方も見られるようしてほしい。報告だけでなく告知も大事である。	①地域の行事・催し物に PTA が今まで以上に積極的に参加していく。 生徒による地域貢献活動については、全校生徒が時期をずらしながら全員が参加できるような体制を続けていく。 ②ホームページの更新が行われているので継続して続けていく。また、パンフレットを配付する機会を増やす必要がある。	①年度末に次年度の活動計画を作成するので、その際に検討事項として PTA 各委員会に投げかけてみる。 地域貢献活動については、清掃活動以外に何が出来るかを模索していく。 ②ホームページの更新は定期的に行っていく。学校説明会以外にもパンフレットを配付するように図っていく。
5	学校管理 学校運営	○　生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ○　ワークライフバランスの実現を通じて、効果的な教育活動を行うため、働き方改革の取組を進める。	①生徒及び職員が参加する「DIG 研修」や「防災訓練」を実施するとともに、災害時に学校としてどのような地域貢献ができるかを模索する。 ②働き方改革のための新たな方策を模索し、働きやすい職場づくりに取り組む。	①新入生及び新着任の職員は必ず「DIG 研修」を受講する。 生徒・職員の安全を確保しながらの地域貢献について、学校運営協議会の要望等を調査し整理する。 ②ノー残業デーの設定や年次休暇の取得の推進により、ワークライフバランスを整える。	①「DIG 研修」「防災訓練」をより実践的に実施できたか。 災害時の地域貢献について具体的な活動を明示できたか。 ②時間外在校時間数を減らすことができたか。 年次休暇取得数を増やすことができたか。	①生徒・職員に対する「DIG 研修」、余震を想定した「防災訓練」を実施することができた。 災害時の生徒による地域貢献については具体的に明示することはできなかった。 ②職員間で協力して業務を行う体制ができており、時間外在校時間数は昨年度比で減っている。	①災害時に高校生を派遣することは難しいので、学校として何ができるかを模索していく。 ②ノー残業デーの設定の工夫やや業務のスクラップアンドビルドにより、ワークライフバランスを整え、働きやすい職場づくりを進める。	①防災訓練については、更なる取り組みとして生徒による地域の防災マップを作り、災害発生時の近隣地域の危険個所を調査、まとめ、発表などすることなどは有用である。また地域貢献につながる教育活動になりえる。 ②ノー残業デーというきっかけ作りが奏功することが期待される。そのためには業務分担と意識改革が必要である。 ・時間外在校時間数減少に向けた取組で今年度効果のあったことを引き続き行ってほしい。	①職員・生徒対象の DIG 研修は毎年行っているので、次年度以降も継続していく。災害時の一時避難場所として、防災備蓄品の管理を徹底する。 ②前年度比で時間外在校時間数が減少したという成果が上がったが、常に時間外在校時間数の多い職員がいることから業務の均衡化が図れる分担することが課題である。	①DIG 研修の成果を緊急時に利用できるように、スマートフォン等に保存するところまで指導していく。防災備蓄品については、体育館完成後に整備していく。 ②業務内容の見直しを進め、簡略化や省略可能な業務の整理を進めるとともに、それぞれがワークライフバランスを整えることができる同僚性の醸成をより一層進める。